

『原爆文学研究』投稿規定

一、原爆文学研究会の機関誌として会員からの意欲的な投稿を歓迎します。なお、会員以外の原稿掲載については研究会事務局で判断します。

二、投稿に際しては、住所・電話番号を明記の上お送り下さい。原稿は返却いたしませんので、お手元に控えをお残し下さい。

三、パソコン等を使用の場合はプリントアウト原稿にデータファイルを添付の上お送り下さい。

四、原稿は、新字のあるものはなるべく新字を用い、注の形式等は既刊のものに準拠してください。

五、投稿者は各自の原稿一頁（機関誌の書式）につき一〇〇〇円を発行経費として負担することをご了承ください。

六、次号（11号）の締切は、二〇一二年一月末日です。

編集後記

第10号をお届けします。今号は投稿論文に加えて、非会員である齋藤一氏によるジョン・W・トリート『グラウンド・ゼロを書くー日本文学と原爆』（本研究会のメンバーを中心に昨年刊行した翻訳書）の書評、そして、研究会発足一〇周年を記念する特集「原爆文学研究会一〇年ーこれまでとこれから」を掲載しております。この特集は研究会のこれまでの活動を振り返り、新たに歩み出すためのヒントを探りたいという意図のもの

企画したものです。シヨート・エッセイを広く会員から募り、執筆者の五十音順に配列して誌面を組みました。エッセイの長さや題材や語り口はさまざまですが、本研究会に集う人々のバラエティの豊富さを映し出す特集にできたのではないかと思っています。特集に限らず、今号全体から「原爆文学研究」の「これから」を感じていただければ幸いです。

今年も本研究会会員による書籍が刊行されましたのでご紹介します。二月には澤田愛子氏による著書『原爆被爆者三世代の証言ー長崎・広島』の悲劇を乗り越えて』が創元社より刊行されました。五月には川口隆行氏による著書『原爆文学という問題領域増補版』が創元社より刊行されました。七月には福岡良明氏の著書『焦土の記憶ー沖繩・広島・長崎に映る戦後』が新曜社より刊行されました。一〇月には小沢節子氏の著書『第五福竜丸から「3・11」後へー被爆者 大石又七の旅路』が岩波書店より刊行されました。ぜひ、一読ください。

これから原爆文学研究会は発足一一年目に入ります。本会が力ある言葉を発信していくためには何が必要なのか。会員相互の、そして研究会外部との緊張関係を失わないためにも、この機関誌を世に問い続けていきたいと考えています。

読者の皆さまからのご意見、ご感想などお待ちしております。

(N)

原爆文学研究

10

二〇一一年二月二五日発行

編集

原爆文学研究会

〒840-0600

福岡市城南区七隈八一一九一

福岡大学人文学部

中野和典研究室気付

発行

（有）花書院

〒810-0033

福岡市中央区白金二一九一六

〒815-0067

〒815-0041

定価 一、二〇〇円(本体一、四三円)

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。

◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。